作成日　　：１９９５年０３月０７日
最終改訂日；２０１４年０９月１９日

安全データシート

１．化学品及び会社情報

化学品の名称：ピロガロール
会社名：キシダ化学株式会社
住　　所：兵庫県三田市テクノパーク１４番１０
担当部門：環境保全グループ
電話番号：（０７９）５６８-１５３１　　ＦＡＸ番号：（０７９）５６８-１６４４
電子メールアドレス：kankyou@kishida.co.jp

２．危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性		健康有害性	
爆発物	分類対象外	急性毒性　経口	区分４
可燃性/引火性ガス	分類対象外	経皮	区分５
エアゾール	分類対象外	吸入(ｶﾞｽ)	分類対象外
支燃性/酸化性ガス	分類対象外	吸入(蒸気)	分類できない
高圧ガス	分類対象外	吸入(粉塵･ﾐｽﾄ)	分類できない
引火性液体	分類対象外	皮膚腐食性/刺激性	区分３
可燃性固体	分類できない	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分２
自己反応性化学品	分類できない	呼吸器感作性	分類できない
自然発火性液体	分類対象外	皮膚感作性	分類できない
自然発火性固体	分類できない	生殖細胞変異原性	区分２
自己発熱性化学品	分類できない	発がん性	分類できない
水反応可燃性化学品	分類できない	生殖毒性	分類できない
酸化性液体	分類対象外	授乳に対する影響	分類できない
酸化性固体	分類できない	特定標的臓器毒性（単回暴露）	区分２(消化器系、腎臓、肝臓、血液系、中枢神経系、循環器系) 区分３(気道刺激性)
有機過酸化物	分類対象外	特定標的臓器毒性（反復暴露）	分類できない
金属腐食性物質	分類できない	吸引性呼吸器有害性	分類できない

環境有害性	
水生環境有害性（急性）	区分３
水生環境有害性（慢性）	分類できない
オゾン層への有害性	分類できない

ＧＨＳラベル要素

絵表示又はシンボル

注意喚起語：警告

危険有害性情報：飲み込むと有害
皮膚に接触すると有害のおそれ
軽度の皮膚刺激
強い眼刺激
遺伝性疾患のおそれの疑い
消化器系、腎臓、肝臓、血液系、中枢神経系、循環器系の障害のおそれ
呼吸器への刺激のおそれ、又は眠気又はめまいのおそれ
水生生物に有害

注意書き：この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
保護眼鏡・保護面を着用すること。
使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
必要に応じて個人用保護具を使用すること。
粉塵・煙・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
粉塵・煙・ガス・ミスト・蒸気・スプレーの吸入を避けること。
環境への放出を避けること。

ＧＨＳ分類区分に該当しない他の危険有害性

粉塵爆発危険性

３．組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：化学物質

化学名又は一般名：ピロガロール

別名：焦性没食子酸、１，２，３-トリヒドロキシベンゼン、１，２，３-ベンゼントリオール

化学特性(化学式等)：$C_6H_3(OH)_3$

ＣＡＳ番号：８７－６６－１

濃度又は濃度範囲(含有率)：９９％(min)

官報公示整理番号（化審法・安衛法）：３－５５４
化学物質管理促進法：非該当。
労働安全衛生法(通知対象物質)：非該当。
毒物劇物取締法：非該当。

４．応急措置

吸入した場合

被災者を空気の新鮮な場所に移動させ安静にし、必要に応じて人工呼吸や酸素吸入を行い、医師の処置を受ける。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類、靴等を速やかに脱ぎ、製品に触れた部分を水又は微温湯を流しながら石鹸を使ってよく洗浄する。

外観に変化がみられたり、痛みが続く場合は直ちに医療措置を受ける手配をする。

目に入った場合

清浄な水で最低１５分間目を洗浄した後、眼科医の手当を受ける。

洗眼の際、瞼を指でよく開いて、眼球、瞼の隅々まで水がよく行きわたるように洗浄する。

飲み込んだ場合

水で口の中を洗浄し、医師の処置を受ける。

被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

眼や皮膚の激しい刺激剤である。動物実験により催腫瘍性を示す。

皮膚を通じて容易に吸収される。

痙攣、循環系統の衰弱、吐血、メトヘモグロビン血症、腎臓、肝臓の損傷、死の原因となる。

吸入：咳、咽頭痛。　皮膚：発赤。　眼：発赤、痛み。　経口摂取：嘔吐、下痢。

応急措置をする者の保護

救助者はゴム手袋と密閉ゴーグル等の保護具を着用する。

５．火災時の措置

消火剤：水噴霧、粉末消火薬剤

特有の危険有害性

空気中で粒子が細かく拡散して爆発性の混合気体を生じる。

燃焼ガスには、一酸化炭素の他有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。

特有の消火方法

消火作業は、風上から行う。

周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。

火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。

周囲の設備等の輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。

消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

消火を行う者の保護

消火活動は風上より行い、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。

６．漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入りを禁止する。

漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。

環境に対する注意事項

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

漏出物を直接に河川や下水に流してはいけない。

封じ込め及び浄化の方法・機材

真空で吸い取るなど粉塵が飛散しない方法で掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。

７．取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策(局所排気・全体排気等)

取扱いは、換気の良い場所で行う。

取扱い場所の近くに、緊急時に洗眼及び身体洗浄を行なうための設備を設置する。

発散した粉塵を吸い込まないようにする。

取扱う場合は、局所排気内、又は全体換気の設備のある場所で取扱う。

安全取扱い注意事項

みだりにエアロゾル、粉塵が発生しないように取扱う。

接触回避

強力な酸化剤、強塩基から離しておく。

衛生対策

保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

保護手袋および保護眼鏡・保護面を着用すること。

取扱い後は、手、顔等をよく洗い、嗽をする。

保管

安全な保管条件

酸化剤並びに酸化性の強い物質との保管は避ける。

混触危険物質と一緒に保管しない。

直射日光を避け、換気の良い冷暗所で密栓した容器に保管する。

安全な容器包装材料

密閉できる容器を使用する。

８．暴露防止及び保護措置

設備対策

取扱いについては、全体換気装置を設置した場所で行う。

取扱い場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。

粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。

保護具

呼吸器の保護具：防塵マスク、簡易防塵マスク

手の保護具：保護手袋

眼の保護具：保護眼鏡（ゴーグル型）

皮膚及び身体の保護具：保護服、保護長靴、保護前掛け

９．物理的及び化学的性質

外観(物理的状態、形状、色など）：白色～類白色の結晶

臭い：無臭

ｐＨ：４～５(5%水溶液,20℃)

融点・凝固点：１３０～１３６℃

沸点、初留点及び沸騰範囲：３０９℃

燃焼性(固体、気体)：有り。

燃焼又は爆発範囲の上限・下限：下限　１．４vol%

蒸気圧：２～５ｈＰａ（140℃）、１３．３ｈＰａ（168℃）

比重(相対密度)：１．４５ｇ／ｃｍ^3

溶解度：水に易溶(20℃:400g/L)。アルコール、エーテルに易溶。

ベンゼン、キシレン、クロロホルム、二硫化炭素に微溶。

ｎ-オクタノール／水分配係数：０．９７０(推定値)

分解温度：２９３℃

１０．安定性及び反応性

反応性

水溶液は、空気中で次第に褐色に変わる。

徐々に加熱すると昇華する。

空気と光により着色する。

アルカリ性水溶液は空気に触れると速やかに酸素を吸収して暗褐色となる。

水溶液は弱酸である。

酸化剤、塩基と反応する。

化学的安定性

通常の取扱い条件において安定である。

危険有害反応可能性

知見無し。

避けるべき条件：混触危険物質との接触。
混触危険物質：酸化剤、塩基
危険有害な分解生成物：一酸化炭素、二酸化炭素

１１．有害性情報

急性毒性：腹腔内　マウス　LD_{50}　４００ｍｇ/ｋｇ
経口　マウス　LD_{50}　３００ｍｇ/ｋｇ
経口　ラット　LD_{50}　７９０ｍｇ/ｋｇ
皮下　マウス　LD_{50}　５６６ｍｇ/ｋｇ
皮膚腐食性及び皮膚刺激性：経皮　ウサギ　２ｍｇ/２４Ｈ(severe)
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：眼　ウサギ　２０ｍｇ/２４Ｈ(moderate)
特定標的臓器毒性、単回暴露：眼、気道を刺激し、皮膚を軽度に刺激する。
特定標的臓器毒性、反復暴露：反復または長期の接触により、皮膚感作を引き起こすことがある。

１２．環境影響情報

生態毒性：水生生物に対して毒性がある。
Danio rerio (zebra fish)　LC_{50}　４１.８ｍｇ/Ｌ/９６Ｈ
土壌中の移動性：物理化学的性質からみて水域、土壌環境に移動する可能性が有る。

１３．廃棄上の注意

残余廃棄物
おが屑等の可燃物と混合し、スクラバー付の焼却炉で少量ずつ焼却する。
或いは、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
汚染容器及び包装
空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

１４．輸送上の注意

国際規制：該当法令無し。
国内規制：該当法令無し。
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策
輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等が無いことを確認する。
転倒、落下、破損が無いように積込み、荷崩れの防止を確実に行う。

１５．適用法令

該当法令無し。

１６．その他の情報

引用文献

1) １６５１４の化学商品　　化学工業日報社
2) 化審法　化学物質　改訂第９版　　化学工業日報社
3) 化学大辞典　　共立出版
4) ザックス　有害物質データブック　　丸善
5) 国際化学物質安全性カード（ICSC）日本語版
6) ＧＨＳ分類結果データベース　　nite（独立行政法人　製品評価技術基盤機構）　ＨＰ
7) ＪＩＳ　Ｋ８７８０-1994
8) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances(May 2007)
9) Merck Index Twelfth Edition
10) Chem DAT(Merck)
11) ACROS Catalogue of MSDS
12) Sigma-Aldrich Material Safety Data Sheets
13) Alfa Aesar Material Safety Data Sheets

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。全ての化学製品には未知の有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。御使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定下さるようお願いいたします。また、特別な取扱いをする場合には、新たに用途･用法に適した安全対策を実施の上で御使用ください。